

行事報告書(研修)

報告者： 関根千鶴 華崎律子

行事名	自然観察会(研修)
実施日時	2019年2月7日(木) 9時30分～15時 天候: くもり
場所	JR西宮名塩駅～旧福知山線廃線跡～JR武田尾駅
テーマ	厳冬期の植物観察
講師	児玉勝久さん、大橋正規さん
参加者数	31名
内容(概要)	<p>児玉さんから、今日の観察は「今の季節の植物たちの生きざま」「冬芽」がポイントと挨拶があった。続いて、大橋さんから、JR 福知山線の歴史についての紹介があった。先に資料として「亀釘」「犬釘」の写真をいただいていたが、「亀釘」の実物を見せていただいた。「犬釘」は京都の蹴上インクラインに残っているという。</p> <p>JR西宮名塩駅から廃線敷へ入る。植物たちの工夫と冬芽を観察しながら進む。名塩川の橋では、大橋さんが水上勉の小説「名塩川」を紹介してくださった。名塩和紙の誕生にまつわる話だという。名塩和紙は材料のガンピに泥をまぜることが特徴。北山第2トンネルで冬眠中のコウモリが見られるかと期待していたが、残念ながら姿は確認できなかった。非常に短いトンネルがあり、大橋さんから跨線水路橋だと教えていただいた。CARNEGIE や HANKAKU の印のあるレールも残っており、歴史を感じる。親水公園で昼食。午後は温泉橋を渡って、さらに右岸の植物を観察した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スイカズラ-葉を裏側に丸めて、気孔のたくさんある葉の裏からの蒸散を抑えている。植物にとって冬の乾燥対策が重要。 ・ナンテン-陽の当たる葉の表は黒赤色。アントシアニンをつくって色を変化させ、葉温を上げないようにしている。これも蒸散を抑える工夫。スイカズラやテイカカズラも陽の当たる葉が赤い。 ・イブキシモツケ-流紋岩質の有馬層群に生える。 ・ウツギとタニウツギ-ウツギの茎は空洞だが、タニウツギは髓がつまっている。ウツギはアジサイ科、タニウツギはスイカズラ科。 ・マツバラ、ヨコグラノキ、ツメレンゲ-兵庫県の絶滅危惧種に選定されている。 ・アブラチャン-冬芽のつかない枝に枯れ葉が残る。尖った葉芽のわきに柄のある丸い花芽が2個つく。冬でも枯れ葉が落ちないことで有名なヤマコウバシの冬芽は混芽。 ・ホソバタブ-葉が波打つ。冬芽は頂芽のみ。枝の先に土用芽のシュートが枯れて黒くなったものが見られた。 ・クリ-葉痕の上の冬芽がクリの実の形に似ている。 ・フユザンショウ-枝先に葉が残る。奇数羽状複葉で葉軸に翼。棘は鬼のこん棒を思わせる。 ・キブシ-水辺に多い。花芽は穂状に垂れ下がる。雌雄異株で、穂が長く花芽が多いものが雄木。 ・キササゲ-葉痕の上にバラの花のような冬芽。維管束が輪状に並んでいるのがはっきり見える。 ・リンボク-果実が少し残っている。秋にイヌザクラに似た花が咲く。バラ科バクチノキ属。 ・ヤブサンザシ-展葉が早く、もう始まっている。 ・マルバアオダモ-冬芽は対生。頂芽、頂側芽が2個。青みかかった灰色。 ・ジャケツイバラ-豆果の残骸が目につく。葉痕の上に裸芽が数個並ぶ。一番上が主芽。 ・アオキ-大きな混芽。 ・ <p>この時期の武田尾にしては暖かく、少し心配された雨にもあわず、ゆっくりと植物観察を楽しむことができた。植物の冬を過ごす工夫には感心させられた。冬芽はその形・色・付き方がバラエティーに富んでいて興味深い。また多くの資料を提供していただき、たいへん参考になったと思う。希少植物であるヨコグラノキが枯れてしまったり、枯れそうになっていたのは痛々しかった。環境についても考えさせられる観察会であった</p>



実際の亀釘



スイカズラの丸まった葉



ナンテン
日陰の葉は緑色



ホソバタバの赤い頂芽



タニウツギの幹は
空洞ではない



ウツギの幹は空洞



今も残るカーネギーの文字



マツバラ



アブラチャンの冬芽と残っている葉



ジャケツイバラ



リンボクの実



展葉が始まったヤブサンザシ